

2. 区民部会の進め方

2-1. まちあるき点検

昨年度のまちあるき点検に引き続き、地区別構想において生活関連施設及び生活関連経路に設定されたもののうち、バリアフリー化が進んだ箇所について、当事者参加によるまちあるき点検を実施します。今年度は、王子地区の完了事業の実施箇所について重点的に点検する予定です。

＜点検候補地＞ ※ あくまで候補地であり、実施確認やスケジュール等は未確定です。

- ・中央公園・中央公園文化センター
- ・周辺道路
- ・十条台区民センター
- ・いきがい活動センター
- ・その他、完了特定事業の報告があった生活関連施設・経路

なお、新型コロナウイルス感染拡大対策により時間短縮・少人数制での実施となり、十分な意見交換ができない可能性を鑑み、まちあるき点検実施箇所以外でも、区民部会の各委員が独自に確認して気づいた事項について情報収集したいと考えています。詳細は10月頃にあらためてご案内します。

2-2. 施設見学会

建て替えを行っていた王子第一小学校が7月に完成するのを受け、施設見学会を実施します。整備内容の詳細は参考資料2をご確認ください。

表2-1 施設見学会実施概要

日時	内容
7月28日(水) 14時～16時	・整備概要説明 ・施設見学 ・意見交換

別添の出欠確認へのご回答をお願いします。希望者がいれば、見学会の同時中継（ZOOM等で配信）も検討します。

2-3. こころのバリアフリーに関する取組

全体構想では、スパイラルアップの一環として継続される協議会の場を活用してこころのバリアフリーに関する意見交換や勉強会、ワークショップなどを実施し、成果を広く発信することにより、こころのバリアフリーの推進を図ることとしています。これを踏まえ、平成 28 年度から令和 2 年度までに以下の取組を実施しました。

表 2-2 過年度におけるこころのバリアフリー推進の取組

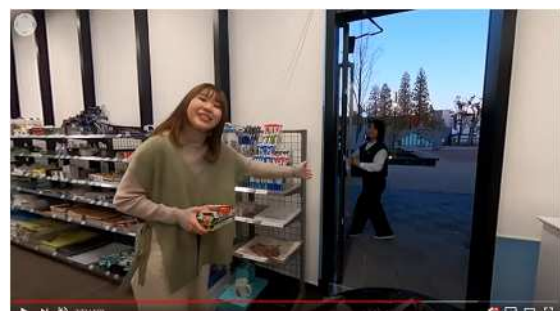
年度	取組内容
平成 28 年度	<ul style="list-style-type: none"> ● 意見交換によるこころのバリアフリーの実情の共有 ● こころと情報のバリアフリーに関する今後の取組のアイデアの検討
平成 29 年度	<ul style="list-style-type: none"> ● 特別支援学校へのアンケート及びヒアリング調査による当事者の声の収集 ● 啓発用リーフレットの作成 ● 協議会や合同意見交換会での事業者への障害理解の実践
平成 30 年度	<ul style="list-style-type: none"> ● 区立小学校へのアンケート調査による子どもの障害者への配慮状況の把握 ● 視覚障害者誘導用ブロックを活用した案内表示の検討 ● 事業者への障害理解の実践（合同部会での障害疑似体験） ● 区民（民生委員）への障害理解の実践（ボッチャ体験・施設見学会）
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> ● 区立小学校へのアンケート調査による子どもの障害者への配慮状況の把握 ● VR による啓発動画の作成に向けた情報収集・体験・企画案の検討
令和 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> ● VR による啓発動画の作成 ● VR 動画視聴会

今年度実施を検討したい取組として、以下の3点を考えています。

(1) VR 動画活用による啓発活動

今年度は、昨年度作成した VR 動画を活用し、区民等への啓発活動を実施します。学校教育や社会福祉協議会等で実施する福祉系のイベントの他、区民部会委員の協力を得て、活用の機会を作っていきます。委員の皆さんからも提案、打診をいただきたいと考えています。

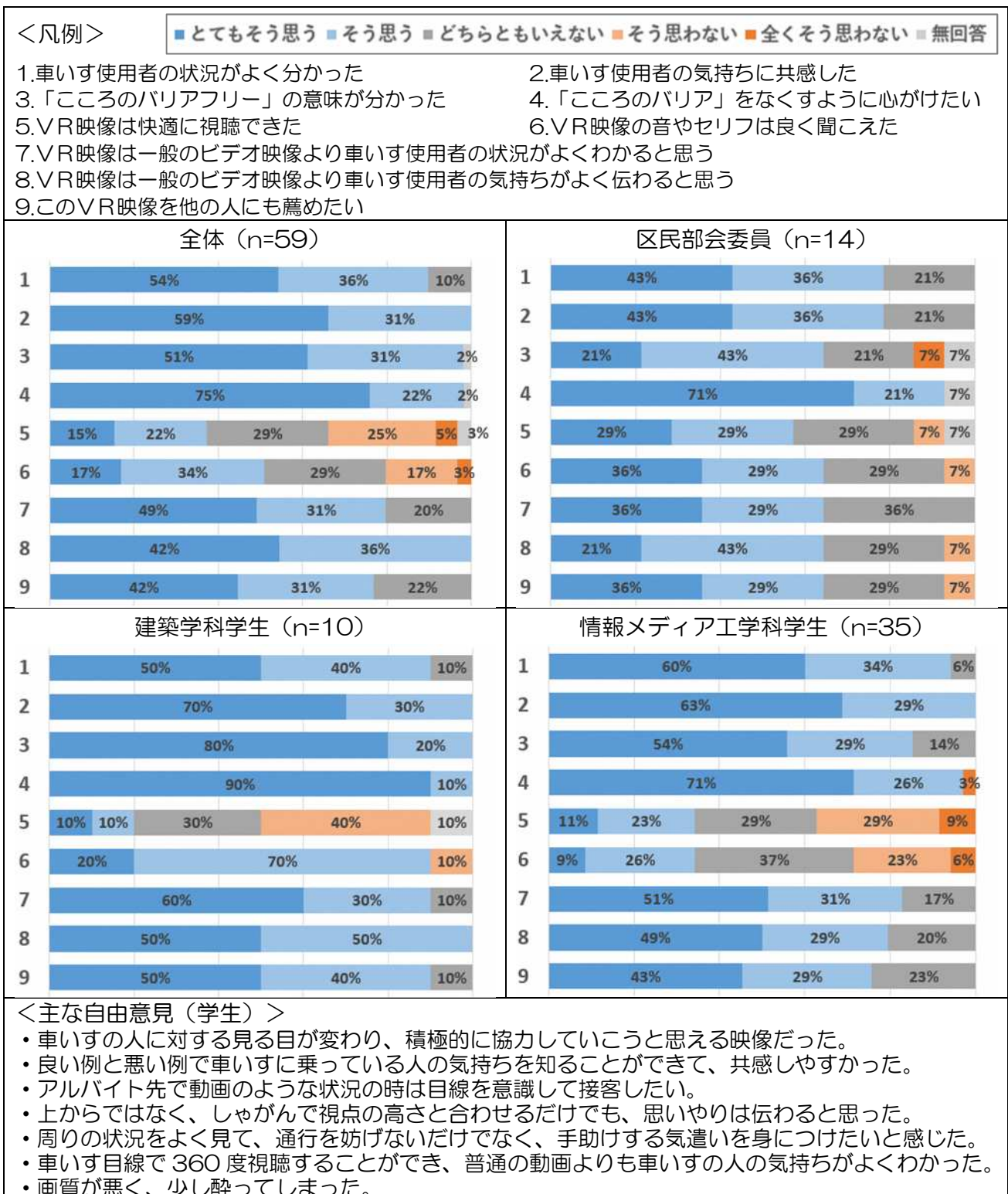
VR 動画の概要：車いすの学生（とその介助をする友人）が、コンビニエンスストアを利用する際の経験について、気付きを促す字幕表示と共に紹介する。悪いシチュエーション（こころのバリアフリーがない場合）を見た後に良いシチュエーション（こころのバリアフリーがある場合）を見ることで、こころのバリアフリーの必要性や、一人ひとりの行動により障害のある人の気持ちや利用しやすさが変わることへの理解を深めるものとなっている。



VR 動画について、区民部会委員の他、日本工業大学に在籍する学生にも体験してもらい、アンケートに回答してもらいました。

回答の結果は以下の通りです。区民部会委員に比べ、学生の方が VR によるこころのバリアフリーの理解促進に対して高い評価をしている傾向がありました。一方、VR 映像視聴の快適性の評価は低めの傾向となっており、視聴会などを実施する場合は VR ゴーグルの使い方を丁寧に説明するなどにより、適切な視聴環境を担保する必要があると考えられます。

表2-3 VR 動画視聴アンケート結果



(2) 視覚障害者誘導用ブロックを活用した案内表示の検討

今年度、東本通りで視覚障害者誘導用ブロックの整備を予定しています。この機会を活用し、かねてより検討していた視覚障害者誘導用ブロックを活用した案内表示の設置に向けた検討を行うことを考えています。基本的には赤羽駅と赤羽岩淵駅の誘導案内を設置することを想定していますが、設置に向けて配慮したほうがよいことなどがあれば、ご意見をいただきたいと考えています。

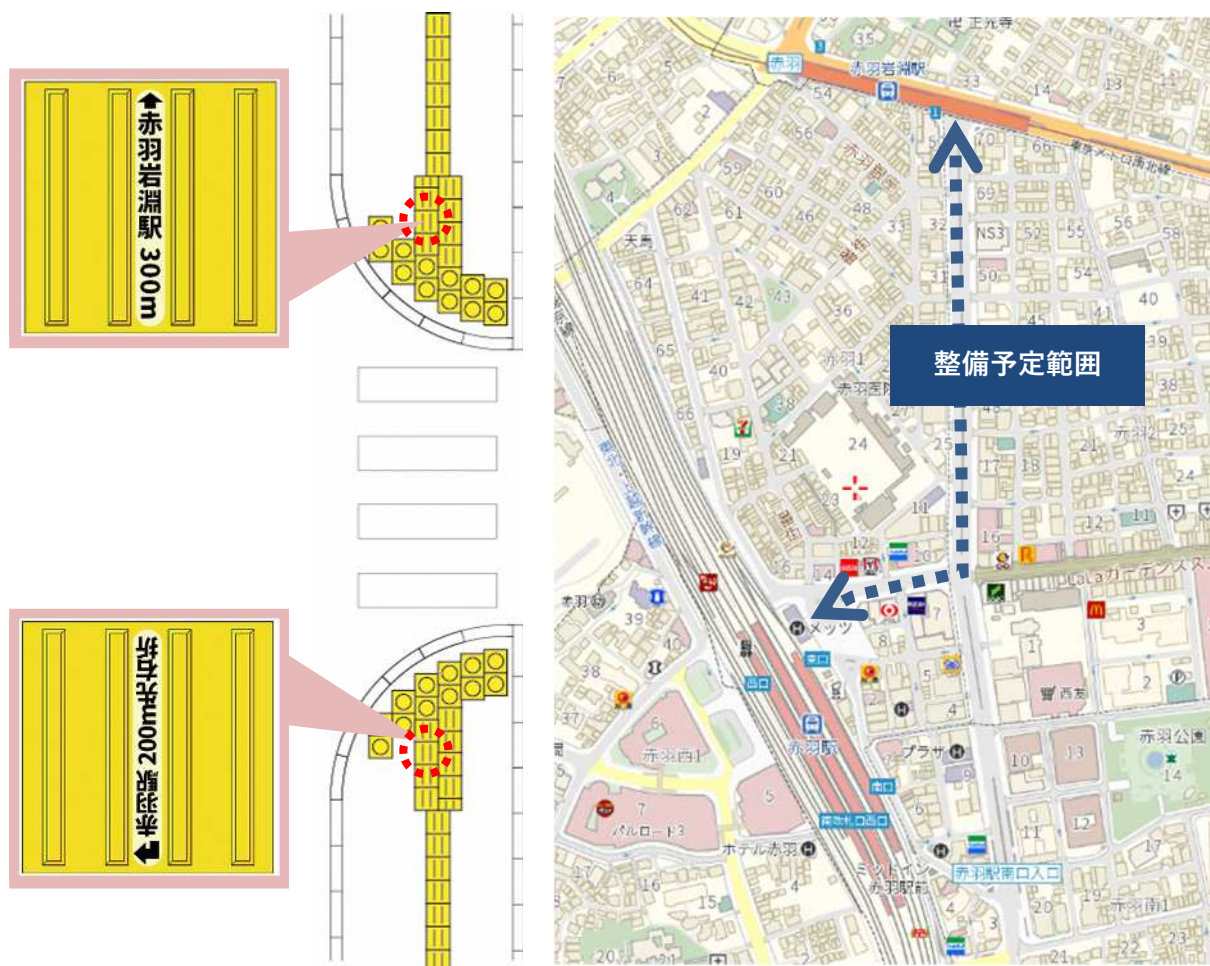


図2-1 視覚障害者誘導用ブロックを活用した案内表示設置イメージ

(3) 小規模店舗のバリアフリー化に向けた働きかけ

これまでの意見交換では、小規模店舗の店主等に向けて、バリアフリー対応（ハード面・ソフト面）に向けた働きかけをするためのリーフレットの作成等をしてはどうかという案が出ていました。令和3年3月に建築物に関するバリアフリーガイドラインである「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準」が改定され、小規模店舗のバリアフリー設計等に関する考え方・留意点が充実されました。あわせて店舗事業者・従業員向けのパンフレットも作成されており（参考資料3）、これを活用して、店主等への働きかけができるのではないのでしょうか。（1）のVR動画による啓発活動と合わせて、委員の皆さんのご協力をいただき、取組の実践の場を探していきたいと考えています。